



復活節第 5 主日 (ヨハネ 15:1-8)

ぶどうの木につながるなら、無限の恵みにあずかれる

今年の復活節第 5 主日には、「イエスはまことのぶどうの木」このたとえが語られました。ぶどうの木につながっている生活には、どんな素晴らしさがあるのかを学ぶことにしましょう。

先週子どもたちのミサのときに「母の日・父の日」について、それと「子どもの日」についての質問を投げかけてみました。「5月には母の日、6月には父の日が来ますね。お父さんお母さんのために何をしてあげますか？」

すると思ひ思ひの答えが返ってきました。「お手伝いをする」「ご飯を作ってあげる」「プレゼントをする」これらは、中田神父にとって合格点の答えですが、根本的なものが欠けていると思ってもう少し追及しました。「みんなが言っているお手伝いやご飯作りやプレゼントは、何のためにしてあげるわけ？」ここで子どもたちは行き詰ります。

そこで助け船を出してあげました。「それらはお父さんお母さんに感謝を表すためですね。感謝の気持ちを、お手伝いにして伝えたりご飯を作って伝えたり、プレゼントで伝えるわけよ。では、『子どもの日』にはお父さんお母さんはみんなに何をしてあげるのでしょうか？」この質問には全く思い付くものがなかったようで、皆押し黙ってしまいました。

「子どもの日は、お父さんお母さんがみんなに感謝をする日ですか？『太郎君、ありがとう』って、お父さんが言う？どうも違うよね～」こういう促しでは何も思い付かないようなので、わたしの答えを暗示しました。「子どもの日は、お父さんお母さんたちが子どもにとっていちばん良いと思うことをしてあげる日だと思うよ。」

今日はここからが問題です。では「子どものためにいちばんよいと思うこと」とは何なのでしょう。張り切ってご馳走してあげることでしょうか。奮発してお小遣いをあげることでしょうか。欲しがっているものを買い与えることでしょうか。もしそれらの答えだったら、わたしがここまで時間を使って問いかけるのでしょうか？

わたしは、子どもと一緒に祈るひと時を作るのだと思っています。年に一度もでもいいから、親子全員で、離れていても時間と都合を合わせて、朝夕祈ったことがあるのでしょうか。年に一度でも、親子全員で、子どもの日にミサにあずかったことがあるのでしょうか。わたしは、子供に神の恵みが特別にあるようにと祈ってあげることが、子どもにとっていちばん良いことだと思っています。「神父さんの考えは分かりました。でもわたしたちの考えは違います」そうおっしゃるのでしたら、それ以上は言いませんが。

さて福音に戻りますが、イエスはまず大前提として「わたしにつながっていないさい」(15・4)と招きます。恵みを受け、実を結ぶためにはイエスにつながっていないならば始まらないのです。その上で「人がわた

しにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」(15・5)と導いていきます。ここではもう、豊かに実を結ぶことは約束されているかのように言われています。

なぜ、イエスはご自分につながっていれば豊かに実を付けること間違いなしと約束できるのでしょうか。それは、御父と御子イエスの関係が説明してくれると思います。

イエスは、無限の力と無限の恵みを持っておられる御父の独り子です。御父の無限の恵みを受け取ることができるのは御子唯一人です。ですからわたしたちがイエスにつながっており、イエスもまたわたしたちにつながっているとすれば、イエスによってわたしたちは御父の無限の恵みを受け取ることができるのです。

わたしたちは限りある存在、不完全な存在です。ですから御父の無限の恵みを最大限受け取ることにはできないので、わたしたちが恵みの受け取り手であるなら豊かに実を付けることはできなかつたかもしれません。けれども、イエスにつながっているなら、イエスがわたしたちのための恵みを御父から受け取ってくださるので、豊かに実を付けることが可能になります。

このことを目に見える形にしてくださったのが秘跡だと思います。神の無限の恵みが、わたしたちがイエスにつながっていることで注がれ、秘跡の効果として現れます。たとえば叙階の秘跡をうけた者は、罪を赦し、聖体祭儀を挙行し、結婚を望む男女を祝福し、司教にあっては自分の協力者である司祭を生み出すことができます。これらは、神の無限の恵みがなければ不可能ですが、神の無限の恵みは、わたしたちがイエスにつながっていることで初めて受け取ることができるようになるのです。

務めを果たすのに不十分な存在である人間が罪を赦し、聖体祭儀を挙行し、司祭をこの世に生み出す。このような無限の恵みは、イエスにつながっていればこそ可能なのです。

神は、人間が豊かに実を結ぶ方法を用意してくださいました。それはイエス・キリストにつながっていることです。イエスにつながり、イエスもわたしたちにつながっている時、初めてわたしたちは神の無限の恵みにあずかることができるのです。

5月5日子どもの日です。神とつながっている時に無限の恵みに触れることができることを、両親の言葉で子どもに伝えてください。子どもたちに、神の無限の恵みにあずかる道は神とつながっていることだと、自分の言葉で伝えてください。そして家族皆が、神に感謝することを学ぶ場として、家族で祈るよう取り組んでください。

子どものためにいちばん大切なことは何か、子どもの日によく考えるようにしてください。のちに子どもたちが、自分の親は自分たちのためにいちばん大切なことを子どもの日にしてくれたと感謝する日が来ることを、心から願っています。